

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：衛生費 項：環境管理費 目：環境管理推進費

事業名 上下流交流推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

環境生活部 環境企画課 環境企画係 電話番号：058-272-1111 (内 2697)

E-mail: c11265@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 7,700 千円 (前年度予算額：8,000 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	8,000	0	0	0	0	0	8,000	0	0
要求額	7,700	0	0	0	0	0	7,700	0	0
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・本県のアイデンティティである「清流」を守るには、住民がその価値に気付き、清らかな河川環境を維持していく意識を醸成することが必要である。
- ・環境保全意識の醸成には、上流域の河川環境が下流域に大きな影響を与えることを、特に次代を担う子どもたちへ伝えていくことが重要である。
- ・意識の醸成にあたっては、地域で活動する人々が、その地域の魅力や課題を直接伝えることが効果的である。また、こうした取り組みは、地域活動団体の活性化にも繋がる。

(2) 事業内容

○上下流交流ツアーの実施

森・里・川・海のつながりに理解を深め、環境保全意識を育む親子に向けたツアーを実施する。

<ツアーコース>

- ・シャワークライミングなどの魅力的な自然体験に、河川清掃などの環境保全、外来種駆除などの生物多様性学習などを組み合わせた多岐に渡るプログラムを盛り込んだツアー実施する。

- ・体験プログラムは現地の環境保全団体等が指導する。またプログラムの中で体験に基づいた環境学習や環境保全活動を行う。

○連携会議の開催

環境保全団体と旅行業者が会する情報交換会を開催し、自然体験ツアーの造成などに向けた連携を促進する。

(3) 県負担・補助率の考え方

県民の環境保全意識の醸成を目的としたツアーであるため、企画、催行に係る経費に関しては県が負担することが妥当。

ただし、ツアーにおける実費（体験料、食事、保険料）は参加者が負担。

(4) 類似事業の有無 無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	151	プロポーザル審査委員、連携会議講師報償費
旅費	187	プロポーザル審査委員、連携会議講師費用弁償、職員の業務旅費
需用費	78	事務消耗品購入、公用車燃料費
役務費	48	郵便料、電話料
委託料	7,184	ツアー開催委託経費
使用料	52	公用車高速利用料、連携会議会場借上料
合計	7,700	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・清流の国ぎふ森林・環境基金事業
- ・第6次岐阜県環境基本計画

(2) 後年度の財政負担

清流の国ぎふ森林・環境基金事業として継続していく。

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

上下流域の住民、特に次代を担う子どもたちが、森・里・川・海での様々な体験・活動を通じて流域の自然環境等に対する理解を深め、環境保全意識を育む。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業 開始前	指標の推移		現在値	目 標	達成率
				(前々年度末時点)		
ツアーの実施回数 (累積値)	- (H23)	102 (H29)	118 (H30)	135 (R1)	156 (R3)	86.5%

（前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

- (1) 上下流交流ツアーの催行
年間17回のツアーを開催
- (2) 連携会議の開催
令和2年1月開催予定

（前年度の成果）

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

[令和元年度の事業実績]

<実施回数> 17回 <参加者数> 455人

<参加者へのアンケート結果>

○ツアーの参加により自然への理解や関心が高まったか。

とても高まった、高まった・・・67.6%

○ツアーへの意見

- ・学習と体験のバランスがとてもよかった。
- ・遊びながら環境の勉強ができてよかった。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価) ○	自然環境保全に対する理解や関心を高めるため、特に次代を担う子どもたちに対し自然の魅力と触れ合う機会を提供する当事業の必要性は高い。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	ほぼ全てのツアーに定員以上の申し込みがあり、また、ツアー後のアンケート調査でも参加者から環境に関する理解や関心が高まったとの回答が多く得られた。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
(評価) ○	公募型プロポーザル方式により事業者へ委託することで、魅力的なプログラムを企画し、安全かつ円滑に催行することができる。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 <p>当事業の目的である県民への環境保全意識の醸成を図るため、ツアーの実績を広く県民に知らしめる必要がある。</p>
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか <p>本事業は、清流の国ぎふ森林・環境税を活用して実施しており、第2期の終期である令和3年までに、次期計画期間中の本事業のあり方を整理する必要がある。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせる理由や期待する効果 など	